

平成28年度 学校評価・自己評価

1. 本年度の教育目標

- (1) 園内外の自然体験を通して、自然に興味や関心を持ち、豊かな感性、考える力を育てる。
- (2) 基本的な生活習慣を身に付け「人と人とのつながり」「生きる力」を育てる。
- (3) 感じたことや考えたことを表現することを通して、豊かな感性や表現力、創造力を育てる。
- (4) 様々な遊びや学びを通して、健康や心や体を育てる。

一本園で目指す子ども像

- (1) 健康で明るく、姿勢の良い節度ある子ども
- (2) よく考え、進んで物事をやりとげる意欲のある子ども
- (3) 自主自立の精神に富み、思いやりのある子ども
- (4) 素直でのびのびして創造性や情操豊かな子ども
- (5) きまりを守り、物を大切にしに、正しい生活習慣の育った子ども

2. 平成28年度 重点に取り組む目標・計画

- | | |
|----------|---------------|
| ○教育課程の改善 | ○教育環境の整備 |
| ○教員の資質向上 | ○保護者・地域住民との連携 |
| ○子育て支援 | ○安全・健康管理 |

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組みの状況
教育課程の改善	<p>幼保連携型認定子ども園 教育・保育要領、本園の教育・保育目標を踏まえ、発達・生活の連続性を考え、年間計画、週案、日案を作成し、日々の教育・保育活動の充実を図っている。</p> <p>園児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて、内容の見直し充実を行っている。</p>
教育環境面の整備	<p>社会状況の変化、保護者の要望に対応に沿って、教育環境を見直し、施設・設備充実に力を入れている。自園方式による完全給食を実施している。また、保育室、園舎の改修（南館の耐震工事、園児用のトイレ、ウッドデッキ）運動会競技の備品、音楽発表会の楽器、遊具・玩具等環境整備に取り組んできた。園外保育の機会を多く実施し、より豊かな体験活動につなげている。</p> <p>ECERS(教育環境スケール)を研究し、園児1人ひとりが周囲の様々な環境に働きかけ、興味や関心を持って関わられるような環境作りを推進している。</p>

<p>教員の資質向上</p>	<p>日々終礼、随時学年会・リーダー会・職員会議を行い、園児の心身の発達、行事、保育活動等共有化を図り、その都度各行事、教育活動を振り返り、保育の質の向上に努めている。</p> <p>園内研修、研究保育を定期的実施すると共に、園外の研修にも積極的な参加し、レポートを作成し、教職員間で共有する場を持っている。昨年度は1年を通して私立幼稚園連盟の研修プロジェクトに参加した職員による研修会を持ち研修を深めることができた。また、大学の講師を招聘した園内研修や大学との連携による、「科学あそび」等の保育活動を行い、保育内容の充実を図っている。</p>
<p>家庭・地域との連携</p>	<p>「開かれた園」をめざして、ホームページ、園だより、クラスだより、保育参観、懇談会等により情報発信を行い、家庭との相互理解を深めている。また、校区連携推進協議会、中学校の職業体験、高校合同避難訓練、公民館祭の参加・老人ホームへの慰問、地域ボランティアの方々、守口スイミングクラブ等との連携に務めている。</p>
<p>子育て支援</p>	<p>預かり保育の延長として、早朝より、土曜日、長期休業中の拡大に取り組んでいる。通園バスにおいても、保護者のニーズに合わせて柔軟に対応している。</p> <p>園児の送迎時の対応、相談や助言、連絡や「おたより」、個人・クラス懇談会、説明会等様々な機会を活用して保護者に対する子育て支援を行っている。また、未就園児対象の園庭開放の充実、夏祭り・スイカ割り・運動会・音楽会・にっこりキッズ・おもちつき等の行事への招待を行った。多くの保護者、子どもの参加もあり、喜ばれている。</p> <p>「ママ友クラブ」を行い、講師を招聘し、教育相談を行っている。今後も多様な支援の在り方を検討していきたい。</p>
<p>安全・健康</p>	<p>年間計画に沿って、健康診断、毎月の身長・体重測定・健康指導等を行っている。給食、親子クッキング、給食だより等を通して食育を通して健康な心と体を育ててきた。</p> <p>施設・用具の安全点検に絶えず目を配り、交通安全指導、地震・火災・津波などに備え定期的に避難訓練を行っている。特に津波については隣接校である芦間高校との合同避難訓練を実施している。また、アレルギー研修を行い、日々の給食においても十分配慮しながら行っている。</p>

4. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な結果

園児数の減少、保護者のニーズの多様化に伴う、魅力のある幼稚園の在り方は大きな課題であったが、総合的な自己評価、学校関係者評価を行うことにより、各項目の成果と課題を明らかにすることができ、総合的な計画を立て一步一步進めることができた。「子育て支援」についても、施設設備の充実共に、預かり保育の延長、未就園児対象に園庭開放を始め、様々な行事への参加、説明会及び「ママ友クラブ」、教育相談等を行ったことも、今年度の新入園児の増加につながったと考えられる。

今後、さらに保護者、未園児に興味や関心を持ってもらえるような園庭開放の在り方、教育相談の充実を図っていききたい。分かりやすい説明会、園だより、ホームページの充実を目指していききたい。また、「教育環境面の整備」「教員の資質向上」等についても、さらに改善充実を図り、向上に努めたい。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み
教育環境面の整備	<p>幼児が安全で心地よく過ごすことのできるようウッドデッキ、トイレの改修や砂場を広げ、大型遊具の設置、外遊びや保育室内の遊具の充実を図り、活動の幅を広げてきた。今後も境を園児にとって楽しく過ごせるように、遊びコーナーを工夫するなどして、子どもたちが興味や関心を持って関わり、考えたり、試したりできる環境を創造していきたい。</p> <p>新制度移行に伴って、0歳児から小学校就学前までの一貫した教育及び保育を園児の連続性を考慮しながら設備の充実を図っていききたい。また、昨年度は、鶴見緑地、深北公園、天王寺動物園等に行ったが、今後も園外保育を充実し努め、自然・社会・生活体験の向上を図っていききたい。</p>
教員の資質向上	<p>研修・研究が円滑行われるような体制を作ると同時に研究・研修の視点や課題、方法について教職員とともに考えていききたい。また、地域、園児の実態を踏まえ長期及び短期に適切な指導が行われるように指導計画を作成し、変更が必要な場合は柔軟に見直し教育・保育指導の充実を図っていききたい。E C E R S（教育環境スケール）を元に、乳幼児の1人ひとりの生活環境や生活リズム、興味や関心の連続性を考慮し自然の流れの中に組み込まれるような教育・保育活動をめざしていききたい。</p> <p>引き続き園外の研修会にも積極的に参加・発表すると共に、園内の研修においても大学の講師を招聘し研究教育・保育の充実に努めたい。</p>

学校関係者評価

園の教育方針や保育内容、教育環境等についてはおおむね好意的な意見が寄せられている。例えば、「園外保育でレゴランドなど様々な所に連れて行ってもらえるので嬉しい」「野菜等を育て、収穫し食べるといことはとてもいいことである」「最近子どもたちの敬語の使い方、言葉使いなどで気になることが多いが、小学校に行って分かることであることですが御幸幼稚園出身の子どもたちは人の話をよく聞き、礼儀正しさが目立つようです」「小学校では6年生が1年生のお世話をすることがあるが、幼稚園でも年長さんと年少さんの関わりがあれば」等の意見が出された。その他「給食のマナー等について」「親子遠足の在り方」等について話し合われた。また、小学校との連携や地域との関わりがよく分からないという意見もありましたので、主に年長さんを対象に、安心して進級できるよう小学校との交流会を行ったり、小学校の先生と進級する子どもたちの様子について話し合う場を設け、子どもたちが安心して新1年生迎えることができるようにしていること等をお話しました。

平成29年度学校関係者評価委員会名簿

氏名	役職	備考
野口 みゆき	前保護者会会長	保護者
山本 千穂	前保護者副会長	保護者
井上 光恵	前保護者副会長	保護者
吉村 幸世	前現保護者会計	保護者
中西 優	現保護者会会長	保護者
中澤 由香	現保護者会副会長	保護者
富永 貴代子	現保護者会副会長	保護者
山城 礼奈	現保護者会副会長	保護者
宇津木 恵美子	現保護者会会計	保護者
山田 千枝子	園長	
田中 弘彦	理事長	

※財務状況

公認会計士により、適正に運営されていると認められている。

平成28年度 事業報告書

1. 法人の概要

〈沿革〉 昭和27年 4月 1日 施設認可
29年11月26日 学校法人
平成27年 4月 1日 小規模保育所 みゆきっこ つばめ保育園開園
平成27年 4月 1日 幼保連携型認定こども園化
10月 1日 さくらんぼ保育園開園

2. 設置する園

- (1) 幼保連携型認定子ども園 御幸幼稚園・さくらんぼ保育園
- (2) みゆきっこ つばめ保育園

3. 当該園の園児数

	0歳	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
御幸幼稚園				48	73	40	161
さくらんぼ保育園	7	20	18				45
つばめ保育園	3	6	10				19

4. 役員・教職員の概要（平成27年5月1日現在）

- (1) 役員 理事（評議員兼務） 7名
監事 2名
- (2) 評議員 8名
- (3) 教職員

	教員		職員		調理員	合計
	専任	非常勤	専任	非常勤	魚国総本	
御幸幼稚園	10	5	3	4	3	25
さくらんぼ	10	8	0	2	2	21
つばめ保育園	4	4	0	0	2	10
合計	24	17	3	6	7	57

5. 財務の概要

平成28年度決算及び事業報告は、理事会及び評議員会において承認され、公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。

平成28年度の事業では新制度の移行に伴い0歳児から小学校就学前まで一貫した教育及び保育を連続性を考慮しながら保育活動、施設設備の充実を図ってきた。

平成28年度は耐震工事、トイレや保育室、ウッドデッキの改修行ってきた。また、平成29年度においても園庭、保育室の改修、ロフトの設置等を行い、よりよい教育環境の充実を図っていききたい。

- 伝統ある本園の良さと共に、時代の要請、保護者の要望を踏まえ、園の良さをより保護者並びに未就園児の保護者に様々な方法で情報を発信していききたい。
- 早朝より預かり保育、放課後の預かり保育の延長、土曜日及び長期休業中の預かり保育の設定を行っている。
- 調理室、ランチルームを設置し、自園調理の完全給食実施を行い、食育、親子クッキング、子どもクッキング、野菜の栽培、試食会の充実に努めている。
- 園児が楽しみにしている園外保育の機会を多くし、豊かな体験活動の機会の充実を図っている。
- 保護者の相互理解や交流や深まるように、講師を招聘し「ママ友クラブ」を定期的に行い、教育相談等を行い、子育て支援の充実を図っている。
- 未就園児の親子が参加できる園庭開放を行っているが、より充実を図り、園の良さ、楽しさを知ってもらう機会にしていききたい。
- 引き続き、未就園児の保護者を対象に説明の機会を設け、いつでも園見学ができる体制を整えている。

監事監査報告書

平成29年5月25日

学校法人 山 添 学 園

理 事 会 御中

評 議 員 会 御中

学校法人 山 添 学 園

監 事 服部 浩之

監 事 尾上 由美

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人山添学園寄付行為第16条の規定に基づき学校法人山添学園の平成28年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日）の業務並びに財産の状況について監査を行った。

私たちは、監査にあたり、理事会および評議員会に出席し、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施した。

監査の結果、学校法人山添学園の業務及び財産の状況は適切であり、不正の行為又は法令若しくは寄付行為に違反する重大な事実はないものと認める。

以上

資金収支計算書

(単位 円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	34,100,000	34,005,110	94,890
手数料収入	201,000	201,000	0
寄付金収入	250,000	225,000	25,000
補助金収入	236,245,000	235,569,132	675,868
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	31,528,000	31,233,331	294,669
受取利息・配当金収入	40,150	35,747	4,403
雑収入	2,105,000	2,075,792	29,208
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,460,000	2,460,000	0
その他の収入	28,252,498	28,202,377	50,121
資金収入調整勘定 前年度繰越支払資金	△ 24,685,000	△ 24,464,269	△ 220,731
収入の部合計	385,621,906	384,668,478	953,428
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	133,630,000	133,244,556	385,444
教育研究経費支出	13,990,000	13,854,894	135,106
管理経費支出	47,837,000	47,481,987	355,013
借入金等利息支出	660,000	660,000	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	30,155,000	29,767,760	387,240
設備関係支出	5,480,000	5,451,290	28,710
資産運用支出	0	0	0
その他の支出 〔予備費〕	20,036,629	19,988,289	48,340
資金支出調整勘定 翌年度繰越支払資金	△ 8,592,951	△ 8,541,090	△ 51,861
支出の部合計	385,621,906	384,668,478	953,428

事業活動収支計算書

教育活動収支			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	34,100,000	34,005,110	94,890
手数料	201,000	201,000	0
寄付金	250,000	225,000	25,000
経常費等補助金	227,196,000	226,520,132	675,868
付随事業収入	31,528,000	31,233,331	294,669
雑収入	2,105,000	2,075,792	29,208
教育活動収入計	295,380,000	294,260,365	1,119,635
科目	予算	決算	差異
人件費	133,630,000	133,244,556	385,444
教育研究経費	25,190,000	24,997,201	192,799
管理経費	50,117,000	49,656,910	460,090
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	208,937,000	207,898,667	1,038,333
教育活動収支差額	86,443,000	86,361,698	81,302
教育活動外収支			
科目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	40,150	35,747	4,403
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	40,150	35,747	4,403
科目	予算	決算	差異
借入金等利息	660,000	660,000	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	660,000	660,000	0
教育活動外収支差額	△ 619,850	△ 624,253	4,403
経常収支差額	85,823,150	85,737,445	85,705
特別収支			
科目	予算	決算	差異
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	9,049,000	9,049,000	0
特別収入計	9,049,000	9,049,000	0
科目	予算	決算	差異
資産処分差額	10	1	9
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	10	1	9
特別収支差額	9,048,990	9,048,999	△ 9
〔予備費〕	0	0	0
基本金組入前当年度収支差額	94,872,140	94,786,444	85,696
基本金組入額合計	△ 34,310,000	△ 35,655,800	1,345,800
当年度収支差額	60,562,140	59,130,644	1,431,496
前年度繰越収支差額	△ 38,489,506	△ 38,489,506	0
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	22,072,634	20,641,138	1,431,496

貸借対照表

(単位 円)

資産の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
	固定資産	[333,897,918]	[312,077,709]	[21,820,209]
	流動資産	[164,734,662]	[91,884,427]	[72,850,235]
	資産の部合計	498,632,580	403,962,136	94,670,444
負債の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
	固定負債	[56,610,000]	[60,000,000]	[△ 3,390,000]
	流動負債	[14,421,159]	[11,147,159]	[3,274,000]
	負債の部合計	71,031,159	71,147,159	△ 116,000
純資産の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
	基本金	[406,960,283]	[371,304,483]	[35,655,800]
	繰越収支差額	[20,641,138]	[△ 38,489,506]	[59,130,644]
	純資産の部合計	427,601,421	332,814,977	94,786,444
	負債及び純資産の部合計	498,632,580	403,962,136	94,670,444

財産目録

(単位 円)

1.資産総額	498,632,580
I 固定資産	333,897,918
II 流動資産	164,734,662
2.負債総額	71,031,159
I 固定負債	56,610,000
II 流動負債	14,421,159
3.正味財産	427,601,421